

第1学年 国語科学習指導路案

教科等	国語科	単元名	これは、なんでしょう	本時	全4時間扱いの3時間目
学級	1年2組	授業者		教室等	1階 1年2組教室

<本時の指導>

<本時のねらい> 自分の考えを話したり、友達の考えを受け止めたりして、ヒントの内容や順番を話し合うことができる。	
主な学習活動【4つの視点】 主な発問:T 予想される児童の反応:C 1.前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。【発見】 導 T:前の時間には、どのようなことを考えましたか。 入 C:どんな問題を出すのかを考えて、特徴を考えました。 2. 本時のめあてを確認する。 もんだいの3つのヒントをえらんで、出すじゅんばんを そうだんしよう。	○研究主題にせまる6つの手だて □…指導上の留意点 ☆…評価 ※UD □前時の振り返りを共有することで、本時の見通しをもたせる。
3. 話し合う事柄について確認し、話をつなぐためにどのように伝えたらよいか、考える。【発見】 4. 2人組(または3人組)で話し合い、書き出した特徴の中から、ヒントにするものを3つに絞り、順番について話し合う。【対話】 T:今度はみなさんが出した特徴の中からヒントにするものを3つ選び、ヒントの順番を友達と話し合いました。 5. 話し合い方の共有をする。【対話】 T:話し合いをしているときに、よい伝え方や分かりやすい話し方がありましたか。 C:「このヒントは分かりにくいから、最後にするのはどうかな。」と話し合うことができました。 6. 2人組(または3人組)で話し合い、ヒントにするものと順番を決定する。【対話】	○話し合いの話し型の提示 話し合いの話し型「友達の考えのよいところを伝えよう」「くわしく知りたいことを質問しよう」「考えをつけたして広げよう」を示す。 ※焦点化 ○交流の目的と視点の明確化 「聞いているみんなが楽しめるクイズにするため」という目的と、「そのものの大事な特徴を捉えられているか」「ヒントを聞いて想像しやすいか」「すぐに答えが分からないよう工夫できているか」という視点をもたせる。 □児童同士のやり取りを教師が紹介したり、話し合いをしてどんな話をしたか児童が発表したりすることで、話し合いの視点を明確にする。 □「ヒント」と「順番」が決まったペアから教師に見せに行き、教師から助言をもらう。 ☆自分の考えを話したり、友達の考えを受け止めたりして、ヒントの内容や順番を話し合うことができる。(発言・行動観察)
6. 学習の振り返りをする。 T:今日の学習の話し合いでできたことやこれからに生かしたいことを書きましよう。 C:今日は友達とたくさん話をつなげて、問題を完成させることができました。	□振り返りの視点を提示することで、話がつながる楽しさや、話し合って良かったという実感を得られるようにする。

【板書計画】

これは なんでしょう

もんだいの3つのヒントをえらんで、出すじゅんばんをそうだんしよう。

○ふりかえり

- ・ペアの人と3つのヒントをきめることができた
- ・ヒントのじゅんばんをだんだんわかるように、することができた
- ・「いいね」といって、きめた
- ・これはどうかな とつたえた
- ・3つのはなしかたをつかいないがはなし

はなしあうこと

①3つのヒント

②そのじゅんばん

☆はなしあいをするとき

① もんだいをたしかめる

② あつめたヒントをたしかめる

③ だんだんわかるじゅんばんにならべる

かんがえを考えたしてひろげよう。

うもめるよね。いほどうかな？

うんうん、たしかになるほど、そうだね。

ともだいのかんがえをうけとめよう。

くわしく知りたいことを質問しよう。

それぞれどう思うの？

【研究主題にせまる6つの手だてとの関連】

(1) 「自分の考えを言葉で表現する」ための手だて

話題設定の工夫

学校にあるものでクイズを出すという活動を設定した。児童がクイズの題材を選びやすいように身近なもの、学校や教室にあるものに範囲を限定する。また、「みんなが知っているけれどすぐには分からないもの」に着目させることで、より具体的に話を進めやすくなるとともに、クイズとしての楽しさを味わえるようにする。

話し合いの話し型の提示

ペアで話し合う際は、「友達の考えのいいところを伝えよう」「くわしく知りたいことを質問しよう」「考えをつけたして広げよう」の話し型を提示し、前向きな話し合い活動を促す。

(2) 「学び合う」ための手だて

意図的にグルーピングされた小集団での交流活動の設定

本単元は合意形成に向けた話し合いが初めてとなる学習である。話し合って合意形成を行うことに重点が置かれているため、発達段階を考慮し、グループ活動より少人数での活動が最適であると考え。そこで基本的には2人組、「話すこと・聞くこと」に関する児童の実態を考慮して3人組で児童が話し合いを進めやすいように、編成を行う。

交流の目的と視点の明確化

「聞いているみんなが楽しめるクイズにするため」という目的と、「そのものの大事な特徴を捉えられているか」「ヒントを聞いて想像しやすいか」「すぐに答えが分からないような工夫できているか」という視点を伝えることにより、目的意識をもちながら、話し合いができるようにする。

活用場面の意図的・計画的な設定

1回目の話し合いから、本時のめあてに沿った場面を教師が見付け、価値付ける。そうすることで、より具体的に「良い対話」のイメージをもって、話し合い活動に臨めるようにする。